

公共図書館児童室の図書選択の現状と問題点
—東京都内の場合—

The Actual Situation and Problems of Book Selection
in Children's Libraries
Limited to Tokyo Metropolitan Area

河 尻 順 子
Junko Kawajiri

Résumé

The present paper describes the situation and problems of book selection for the collection of the children's room of a public library.

The paper consists of the following three parts:

1) The purposes or principles of book selection and underlying various factors are described.

2) Nine public libraries in the Tokyo metropolitan area are chosen and examined in terms of book selection manuals, community cooperation, acquisition policies, etc. Further, the collections in these libraries are checked in order to find out characteristics and tendencies of those policies at each library. Those books which have been recommended in more than two of 12 book lists and/or some book reviews are listed up. Then, it is examined whether or not each library has those books.

3) The influence of *Sentei tosho mokuroku* (List of recommended books), prominent publishers and well-known writers to book selection policies is examined. Further, the author examines the present characteristics and acquisition tendencies of non-fiction books, prize-winner books, comic pictures, "Kadai tosho" (books recommended for assigned readings for school children) and popular books, all of which are usually considered in Japan difficult to be selected.

As a conclusion based on the surveys, the author recommends some policies for selection of popular and non-fiction books, and criticizes the present policy for selection of "Kadai tosho". She also recommends to modify book selection standards according to the locality of the library.

はじめに

I. 児童図書選択

A. 目的

B. 原則

C. 選択に及ぼす諸要素

河尻順子：慶應義塾大学図書館・情報学科図書室

Junko Kawajiri, Acting Librarian, School of Library and Information Science Library, Keio University.

II. 調査結果

A. 図書館

B. 質問事項及び回答

C. 各種受け入れ資料調査

おわりに

はじめに

今日、子どもたちの読書意欲の相当部分を公共図書館児童室が満たしている。そしてそれは、今後ますます増大する要求に対して重要な機会の提供者となるものと予測されている。子どもたちの図書選択の動機づけの重要な一環としてこれら児童室の図書選択メカニズムが存在する。欧米の公共図書館の発達過程の中で、その重要な機能である図書選択の方法は、人種・民族・言語問題の長い葛藤を通じて、今や確立されたメソッドが存在しているが、日本の公共図書館の特に児童分野の実態は、あまり明らかではない。

筆者は、この公共図書館児童室の図書選択の現状と問題点をこれらの図書館の現代社会における位置づけ、すなわち、その公共施設の背景となっている住民の意識・地域の特質などからアプローチしたいと考えた。したがって極めて具体的調査と分析の手法により、問題の解明を試みた。

本論の構成は、I. 児童図書選択、II. 調査実態、III. 総論の3章で成り立っている。まずI章では基本的な図書選択論を、英米の児童図書館員の、オーソドックスな考え方に沿って述べている。II章では、本論の中心ともなるべき部分で実際に調査した結果を述べている。まず実地調査にはいる前の調査手順の説明（調査する図書館の選択方法・質問事項及びブックリストの集計作成目的ならびに手順を説明）、併せて質問事項の回答及びブックリストの集計照合結果を述べている。集計照合結果では、選書に影響を与えと思われる図書館の依存度の高い選択ツール及び課題図書・受賞図書・ノンフィクションなど選書の際問題となり得る資料の現状を主にみていく。そしてIII章では、以上の問題となる点、現状等を考察する。

尚、調査結果はすべて1974年度現在のものである。

最後に、この論文を作成するにあたり、多大の協力と援助を惜しまなかった、各公共図書館児童室の職員の方々に心から感謝を申し上げたい。

I. 児童図書選択

A. 目的

児童図書の選択の目的を考えるには、児童図書館の目的としていることも同時に考えなくてはならない。

第1の目的は子どもの成長発達過程において、教養・知識を身につけ経験や認識がひろげられるように本を媒体として援助することである。

第2の目的は、本来“本好きの子ども”や“本嫌いの子ども”という分け方は、あり得ないこと、そして“個人の人間を重要視”¹⁾して“子どもは個人として認められ、1人の人間として迎えられる。”²⁾ことを確認して、子どもが何を欲し、必要としているかを察知し、その要求に答え、満足と喜びを与えるような奉仕をすることである。

B. 原則

図書選択の目的に適うためには、蔵書を幅広く、変化に富ませ、子どもがたやすくしかも楽しく利用できるように保たなくてはならない。そしてバランスのとれた蔵書構成の維持を念頭におかなくてはならない。したがって予算の面においても、フィクションとノンフィクションは、公平に使われなければならないし、多くの読者のために一部の人を犠牲にしてもいけないし、どんなわずかと思われる主題の分野でも馬鹿にしてはいけないのである。そして古くなった本、必要のなくなった本の廃棄及び買い換えも円滑にすみやかにおこなわなければならない。又質と量におけるバランスも考えなくてはならない。

以上のように、全体的なバランスの維持を考慮に入れた上で、次に考えなくてはならないことは、個々の図書における原則（基準）特に内容と体裁の2点についてである。

1. 内容

どのような図書を子どもたちに提供しなければならないかを、多くの人々は語っている。そういった多くの基準となるべき特質をまとめてみると、

- a. 内容の充実（著者が何事かいわんとすること）
- b. 誠実（著者がそれを述べることを、読んでもらいたいと思う特定の人々に彼の言いたいことを正直に伝えようと努力していること）
- c. 真理（子ども向きの話の裏には、ある程度の真理と真実がなくてはならない。しかし真実が描かれるのは現実小説だけとは限らず、ファンタジーにおいても描かれるのであるということは忘れるべきではない。）⁹⁾

大きく分けると以上の3項目となるが、更に細かく見ていくと、

- 1) 本の意図している主題が、それぞれの年齢に適合していること。
- 2) フィクションは人生の真実がなくてはならない。そして正当なテーマをもたなくてはならない。
- 3) 想像力を豊かにし、しかもいつまでもそれを失われられないようにする。
- 4) 機智とユーモアの正しい味をもっていなければならない。
- 5) 調和と美に対して優れているもの。
- 6) 文学的な文体（あるいは少なくともよい言語）学問的に正しくということではなく、はっきりと明確にきちんとそして理解しやすいこと。
- 7) その物語の内容やムードに合った文体であること。
- 8) ノンフィクションは、正確で、意味が深いこと。
- 9) 特に科学読物や歴史読物などの分野は、新しい知識におくれないように、新しさをもっているもの⁴⁾。

以上であるが、実際このような基準に合うもの、そして必ず蔵書に含まれる図書は、自国や世界で定評のある名作である。その名作は、図書館員、教育者、作家の認めた本、子どもたち自らの手で古典にした本、様々な形で名作は語られている。そして Harriet G. Long は、公共図書館の本来の義務として次のように語っている。

その本来の義務は、不朽の価値をもつ本即ち、作品としてすぐれている上、子どもがすでに、自分たち子どもの本だと受け入れているような本をそろえることである。⁵⁾

2. 体裁；物理的属性

“子どもを良書を読むように導く最良の方法は、外面的に魅力のある出版物を備えること”⁶⁾であるが、やはり内容同様それぞれの特質を、L. R. McColvin の挙げた物理的属性を決める項目の基準に即してまとめること

ができる。

- a. 魅力的であること
 - 1) 個性的であること
 - 2) 明るく、きびきびしていて積極的な感じを与える
 - 3) 適当な大きさ
 - 4) さし絵がある
 - a) 技術的にすぐれている
 - b) 作品との調和がとれている
 - c) 美しい配色である
- b. 耐久力のあること
 - 1) 質の良い紙であること
 - 2) カバーが丈夫であること
 - 3) 製本のしっかりしたもの

c. 読み易いこと

- 1) 鮮明で読み易い大きさの活字で、単純かつ普通の形である
- 2) 適当な余白の大きさ及び行間⁷⁾

C. 選択に及ぼす諸要素

図書選択の際、更に考えなくてはならない各図書館の選択方法を特色づけるような要素がいくつかある。

1. 地域協力

児童室のおかれている地域を知る上にも、きめの細かい選択、そしてサービスをおこなう上にも、児童に関係した諸施設について、その関係・協力・交流について考えなくてはならない。

まず挙げられるのが、学校である。人気のある本あるいはよく借り出される本については、子どもたちの間の流行や親の指示によって左右されるということがあるが、“何といても学校の先生なり、授業なりの児童に与える影響は非常に大きなものである。”と、どの図書館員も異口同音に先生の影響力の大きさについて語っている。これだけ児童室に大きな影響を与える先生や、学校図書館と何らかの協力なり連絡なりがあるのは当然であろうと思われる。

本来、学校図書館と児童室は、その立場上、目的と役割は異なったものであり、したがって一方が他方の肩替りし得ることではないことは当然のこととして、両者の役割を確認し合った上で、情報交換、技術的援助などおこない、今後2つの図書館がどのように発達しても、図書館をよりよくする上で、お互いの関係を深めていかななくてはならないだろう。

次に挙げることができるのが、児童館である。児童館

公共図書館児童室の図書選択の現状と問題点

は、児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、また情操を豊かにすることを目的とする施設で、多くの児童館は、遊戯室・図書室・工作室・集会室で構成されている。そしてその図書室においては、児童館の最低設置基準にもあげられているので、どの館にも置かれているはずであるが、しかしその図書室では、僅かな予算・人手不足と職員の熱心度・蔵書数の多少などの諸原因によって、満足なサービスがあまりおこなわれていないのが現状である。

そして児童館の存在理由は、図書館のそれとは法的に異なり、担当する課が違い別々の組織として運営されているためにその交流は難しいと思われるが、読書施設の一つであるということは、認識されなくてはならないだろう。

同様に、他の欧米諸国では見ることのできない特殊な現象と発達を示している文庫活動においても、公共図書館が、だんだんふえていく中にあって、衰えない事実を改めて見直さなくてはならない。そして交流を深めていかねばならない。

2. 選択方法

アメリカでは大図書館は勿論のこと、ほとんどの図書館がもち、又もつべきであるとされているのが、図書選択方針 (Book selection policy) である。これは、図書

選択の面をカバーする文章化された方針で、内容は、図書館活動の目的から始まって、要求、各ジャンルの児童図書、特殊な例が具体的に、誰でもこれに基づけば、作業ができるような方針が明文化されている。

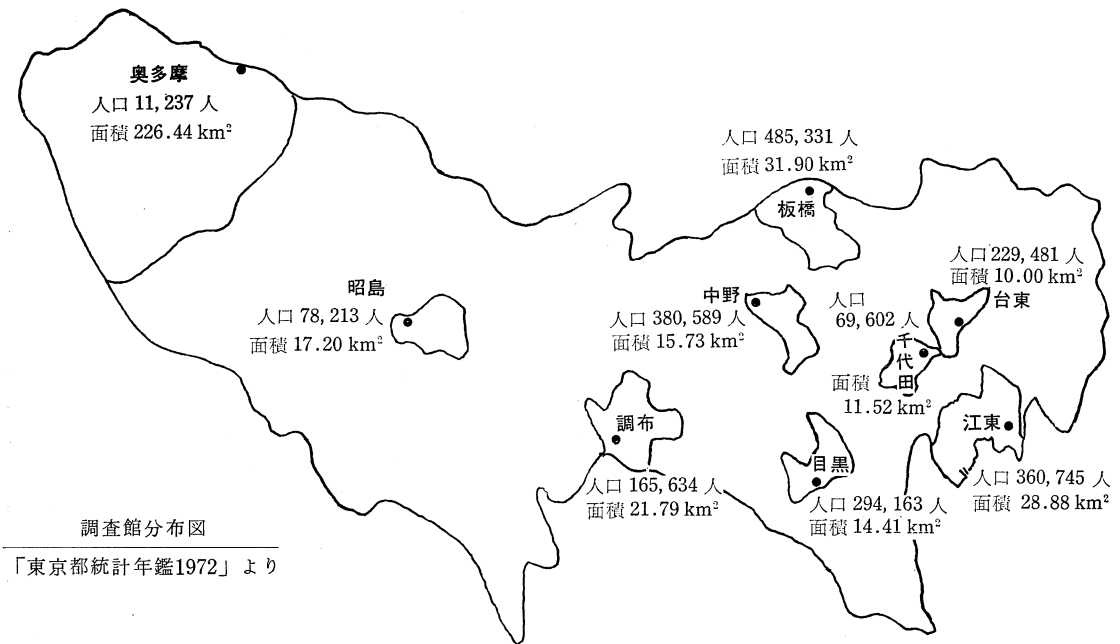
方針と同時に基準 (standards) も同時に考え合わせなくてはならないものである。図書館では購入をさし控えた方がよろしいと判断を下すものとして Harriet G. Long は以下のようにまとめている。

古典とみなされているものや民話のあまりにもお手軽な焼き直しだったり、とるにたらない創作読物や、価値をとりちがえているきわもの的な、害を与える読物。時には、知識のための本でありながら、不正確だったり、扱い方が上すべりだったり編集がお粗末だったりするような本⁸⁾

II. 調査結果

A. 図書館

調査した図書館は、東京都内に限った。そしてその規模・予算・活動内容及び熱心な児童図書館員の有無などについては一切無視し、それぞれ、特色のありそうな地域の図書館を選んだ。この選び方において基準はなく、住宅地域・商業地域・下町・山間、そして人口増減の特長といった大体の感じと、千代田区を除いては、隣接し



第1表 各館の統計

	開設年	予算 ^注	蔵書数	貸出冊数	登録者数	分館数	B・M
千代田	1887*	約 224,530	5,257	26,475	1,589	0	
台東	1962	1,380,000	19,302	43,608	2,682	2	ひかり号
深川	1927	約2,500,000	9,278	118,515*	9,086*	2	しおかぜ号
目黒(守)	1958	—	12,515	94,444*	6,026*	3	
中野	1963	2,247,000	9,232	33,946*	2,764	地域館 ³ (11)	
板橋	1970	790,000	約 10,000	53,337	4,600	1	
昭島	1973	14,450,000	41,261	—	—	1	
調布(宮)	1972	1,000,000	約 5,000	19,049*	1,547*	(9)	
奥多摩	1949	400,000 (71-73)	3,398*	15,983*	登録制なし	0	

注：昭島を除き児童室の予算 * 印は「東京の公立図書館」より

ないという条件以外は、全く無作為に選びだした。

調査した図書館は、以下の9館である。

- (1) 千代田区立千代田図書館
- (2) 台東区立台東図書館
- (3) 江東区立深川図書館
- (4) 目黒区立守屋図書館
- (5) 中野区立中野図書館
- (6) 板橋区立中央図書館

(7) 昭島市立市民図書館

(8) 調布市立宮の下分館

(9) 奥多摩町立図書館

B. 質問事項及び回答

1. 質問事項

各図書館の選択方法、地域協力、受け入れ資料の特色等を知るために、質問すべき項目を以下のように作成した。

第2表 地域協力質問回答

	学 校 (図書館)	児 童 館	家 庭・地 域 文 庫
千 代 田	1973 年度から団体貸出(申し込み学級なし)・見学	団体貸出	文庫からも団体貸出の申し込みなし
台 東		団体貸出 (こどもクラブ <学童保育> とは比較的密接)	
深 川	熱心な先生のクラスには団体貸出 図書館員も学校図書館協議会に出席	児童館の職員は月1回の「江東子どもの本研究会」に出席	10 数年前から自治会文庫・町会文庫が開かれ、選択・整理の手伝いなど積極的な協力体制をとっている。
目 黒	見学	1974 年に児童館がはじめて開館まだ明らかではない	団体貸出
中 野	かつて団体貸出	選書の相談	団体貸出
板 橋	団体貸出は事業係の仕事であるため把握できず		
昭 島	図書館が新しいため、現在全市的読書調査をおこない統計をとっている。		団体貸出 病院 (3 カ所 200 冊) 老人集会所 (4ヶ所 1000 冊)
調 布	団体貸出・児童室利用・学校図書館の現況調査 ⁹⁾	時々本を借りる程度	
奥 多 摩	1 クラスに3年間団体貸出をつづけている。		

公共図書館児童室の図書選択の現状と問題点

- a. 地域協力
- 1) 学校図書館, その他教育機関における協力
 - 2) 児童館との協力
 - 3) 家庭文庫・地域文庫との協力
- b. 選択方法
- 1) マニュアルの有無
 - 2) 基準
 - 3) 選択の責任(選択の担当者)
 - 4) 使用選択ツール
 - 5) 取り引き書店及び取次店
 - 6) 購入日(選定日)
 - 7) 整理期間
- c. 各種資料受け入れ方針
- 1) 課題図書
 - 2) 受賞図書
- 3) 原語図書
- 4) マンガ
- 5) ノンフィクション
- d. 子どもに人気のある本
2. 質問回答
- a. 地域協力
- 第2表参照
- b. 選択方法
- 第3表参照
- c. 各種資料受け入れ方針
- 第3表参照。尚, 1) 課題図書 2) 受賞図書 4) マンガ 5) ノンフィクションは後述(C-3)
- C. 各種受け入れ資料調査
1. ブックリストの集計
- a. ブックリストの集計作成目的

第3表 各館の選択方法

事項 館名	(人) 選定者	選 択 TOOL	購 入		整理 期間	図書(特殊)		マ ニ ュ ア ル	基 準 (購入をさし控えているもの)
			購入先	購入日 (選定)		原語	受賞		
千代田	2	読書・図書新聞, 読書人 カタログ 書評(子どもの本棚)	東京堂 東販	週1回 (金)	1~1.5 ヵ月	×	考慮 せず	なし	参考書・名作本(原作の表現, 良さをそねったもの)・マン ガ(但し学習マンガは感じて 入れる)
台東	2	選定図書速報	東販 日販	月1回	1ヵ月	○ 絵 本	"	"	おとなの主観の入ったおしつ けがましい名作の本
深川	5 (ロー テー ション)	選定図書速報 日刊新聞, 読書新聞 etc. カタログ	区内書店	週1回 (火)	10日~ 2週間	○ "	"	今後作 る予 定	①探偵ものなどのうちどぎつ いもの②「1年生のー」とい った学年ものには例外なしに すぐれた本はない④著者・訳 者など信頼のおけない人の 作品④翻訳ものに限らず探 偵ものS・F等のダイジェス ト版⑤歴史・戦争の本など その記述方法・歴史観・視 点が興味本位
目黒	4 (緑 ヶ 丘)	読書・図書新聞, 読書人 出版ニュース, 選定図書速 報, 子どものしあわせ, 子 どもの本棚 etc.	東販 日販 区内書店		1ヵ月	△ 今 後受 入れ けれ	"	なし	抄訳本・マンガ
中野	2	選定図書速報 子どもの本棚	区内書店		2週間 ~1ヵ月	○ 絵 本	"	"	名作本
板橋	1	選定図書速報 出版ニュース	区内書店		2~3 ヵ月	×	"	"	内容の如何を問わず装丁の悪 い絵本
昭島	1	優良児童図書目録	市内書籍 組合	不定期	3, 4日	○	"	"	出版されたすべての本を購 入しているので, 適用すべき 基準はないが, やはり名作の 本, 絵本は直接書架に出さず, 研究用として別置
調布	1	選定図書速報, カatalog 出版ニュース, 日本総合 図書目録 etc.	市内書店		2週間 ・1ヵ月	△ ま だ出 さず 書架	"	"	子ども自身を基準としてい るため子どもを無視したもの
奥多摩	1	読書人, 読書新聞 カタログ	東京堂	年3回	20日~ 1ヵ月	○ 絵 本	"	"	

各図書館の特徴、傾向を知るためには、質問の回答ばかりでなく、実際にその資料にあたってみなくてはならない。又この調査を多面的にするためにも何らかの指針が必要となる。それは、子どもたちによって認められそして教育者、児童図書館員、児童文学者、文庫活動をおこなっている人々など、児童の図書に携わっている様々な人々によって推選された標準ともなるべき本であるということが、この場合考えられる。そしてその標準は、1冊や2冊のブックリストに推選されている本を列举するのでは不完全であり、公正さを欠き、したがってあらゆる立場の人々が一致して認めたものでなければならない。そのため何冊かのブックリストに共通してとりあげられたものということが考えられ、そこで作成されたのが、ブックリストの集計である。

この集計は客観的であることを原則として数量的、機械的に作成されたものである。そして利用者の立場からということをも前提条件とするため、それには、使用されるブックリストは、利用者が手に入れ易いものでなければならない。

このブックリストの集計は、14冊のブックリストと日刊新聞3誌によって作成され、その中から2冊もしくは2誌以上にとりあげられた作品によって構成されている。

b. ブックリストの集計作成手順

この構成は3つの部分に分かれている。1) 単行本のブックリストによる集計 2) 比較的新しい作品のための日刊新聞とその補助資料の書評による集計 3) 課題図書及び受賞図書の3部門である。

1) 単行本ブックリストによる集計

まず使用されるブックリストのうちで1972年までに出版されたリストは「児童図書館」¹⁰⁾及び「日本児童文学」¹¹⁾に紹介されたもののうち、事典類及び学校図書館用リストを除いた8冊をとりあげ、1972年以降出版のリストは、都立中央図書館にあるリストを使用し、これらの12冊のリスト¹²⁾をそれぞれ照合し、そのうち2冊以上にとりあげられた本を摘出していった。

尚、それぞれのブックリストはその出版年及び対象年齢、そしてとりあげる本の出版年、主題の範囲、何を対象としているか、など異なった要素を含んでいるのであるが、そういった要素はすべて考慮に入れず機械的に照合を繰り返した。

2) 比較的新しい作品のための日刊新聞とその補助資料の書評による集計

使用したブックリストのほとんどが、1960年代に出

版されたもの、もしくはそれ以前に出版されたものを取りあげているため1970年以降の新しい本については、ここ数年の間にその書評が盛んになりだした日刊新聞によって照合、摘出作業をおこなった。使用した新聞は、「朝日」・「毎日」・「読売」(1968年から1974年7月まで)の3新聞で、やはりブックリスト同様、2誌以上にとりあげられた図書を抜き出した。又中には、新聞においても、ブックリストにおいてもとりあげられた本も時期によってはあるので、これも集計に入れた。しかし新しい作品に関しては、まだ評価も定まっていなかったために、更に客観性をもたせるために、伊勢丹デパートの「よい本のリスト」¹³⁾及び阪急デパートの「こんな本あんな本」¹⁴⁾を補助的に使用した。この2冊はやはり「児童図書館」によって紹介されたもので、今まで挙げた単行本のブックリストとは異なり、毎年パンフレットのような形でだされている。

3) 課題図書及び受賞図書

以上が基本的な部分であるが、課題及び受賞図書という観点からもみていく必要があるそうなので項目に入れた。まず課題図書は、ブックリストの集計如何にかかわらず、全112冊を入れた。次に受賞図書は、たとえ1冊のブックリスト及び1誌の書評でもとりあげられた作品はすべて集計に入れた。

以上の3構成であるが、いわゆる名作といわれている本は、多くのブックリストや新聞に推選されるが、それぞれ推選する出版社や訳者が異なることが多い。又そればかりではなく出版社の違いによって書名が異なるという例もしばしばある。(例「若草物語」・「四人の姉妹」、「ハイジ」・「アルプスの少女」)しかし、これは機械的・数量的という原則から、一応それに従って出版社及び書名が異なっても列挙した。

又シリーズもののまま推選されたり、別々に推選されたりすることもよくある。(例「ナルニア国ものがたり」「ライオンと魔女」、「フランバーズ家の人々」、「愛の旅だち」)普通シリーズ中、1番最初の作品を扱っている場合が多く、それに準じ、必要があれば、シリーズ名あるいは、シリーズ中のその他の作品も入れた。

2. 調査結果

a. ブックリストの構成

絵本	244 冊
ノンフィクション	141
課題図書	112
受賞図書	125

公共図書館児童室の図書選択の現状と問題点

読物（文学） 546
 以上は重複するので、全部で 931 冊になる。
 次に、このうち新聞の書評欄に載った数を集計する
 と、
 「朝日」・「毎日」・「読売」3 誌掲載図書 65 冊
 「朝日」・「毎日」 147
 「朝日」・「読売」 108
 「毎日」・「読売」 78
 となり合計
 「朝日」 311
 「毎日」 252
 「読売」 250
 となる。

補助資料はそれぞれ
 「よい本のリスト」 76 冊
 「こんな本あんな本」 103
 となっている。
 次に 12 冊のブックリストにそれぞれ推選された図書
 数は
 11 ブックリスト推選 1 冊
 10 3
 9 5
 8 12
 7 14
 6 20
 5 38

第4表 ブックリスト推選の多い図書（7ブックリスト推選まで）

B	T I T L E	P	L	B	T I T L E	P	L
11	ドリトル先生シリーズ		9		ちびくろさんぼ		9
10	かにむかし		9		チムとゆうかなんせんちょうさん		9
	ながいながいペンギンのはなし	○	8		床下の小人たち		8
	ひとまねこざるシリーズ		9	7	いやいやえん	④	8
9	おかあさんだいすき		9		おおきなかぶ		9
	きかんしゃやえもん		9		大昔の狩人の洞穴		8
	シナの五人きょうだい		9		メアリーポピンズシリーズ		9
	だれも知らない小さな国	②	9		かばくん	○	9
	ちいさいおうち		9		ききみみずきん		9
8	いたずらきかんしゃちゅうちゅう		8		宝島		7
	エミールシリーズ	○	8		竜の子太郎	②	9
	エルマーシリーズ		9		ちびっこカムのぼうけん		9
	おやすみなさいの本		8		どうぶつのこどもたち		8
	クマのプーさん		9		ねむりひめ		9
	こねこのピッチ		8		マーシャとくま		9
	シャーロックホームズの冒険		8		まりーちゃんシリーズ		8
	しょうぼうじどうしゃじぶた		9		ムギと王さま		9
	うさこちゃんシリーズ		9				

B；ブックリスト推選数

P；受賞（丸の中の数字は賞を受けた回数）

L；保有図書館数

4 40
3 70
2 86
b. ブックリストの集計照合総合結果
ブックリストの集計図書の各図書館の所蔵冊数は次のようになる。

昭 島 875 冊
中 野 851
目 黒 805
台 東 789
深 川 784
千代田 744
板 橋 622
宮の下 601
奥多摩 361

次に集計図書を所蔵している図書館数の冊数は、

9 館所蔵 189 冊
8 269
7 160
6 140
5 77
4 42
3 22
2 16
1 4
0 12

この照合は、各図書館の目録カードとチェックしておこない、不明瞭な点の再確認など厳密を期したが、尚、保有館数を大きく分けて、9, 8 館保有図書を A, 7~5 館を B, 4 館以下を C と 3 クラスに分けた。

第5表 ブックリストの集計調査表 (例)

		LIBRARY	BOOKLIST	NEWS-PAPER	*
©	TITLE	1 2 3 4 5 6 7 8 9 調昭千奥目台中板深 布代多 宮島田摩黒東野橋川 AL	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 T O T A L	1 2 3	1 2 3
'73	愛について	○○○ ○○○ ○7		A k	✓
'62	アイヌ童話集	○ ○ ②○○○○7	○○ ○	3	✓ D
'59	アイヌの物語	0 ○○○	3		
'73	愛の旅だち	○○○○②○○○○9		. ky	✓ ✓
'70	青い光のひみつ	○ ○○○ ○5		MY	✓
'73	あおいめくろいめ ちやいろのめ	②④○ ③○○ ○7		AY	✓
'65	あおい目のこねこ	○②○○④○○ ○8	○○ ○○	4	✓
'70	青空にばんざい	○○ ○○○ ○6		MY	
'73	あかいありとくろいあり	③○○ ○○ ②6		A y	✓
'73	赤い貨車	○○○○ ○○○○8		A k	✓
'73	赤い帆の舟	○ ○○ ○ ○5		A M Y y	I
'72	赤毛のブン屋の仲間たち	○③ ②○○○○7		AM	
計	E-2 (絵本) N-1 (1) (ノンフィクション) ()内は絵本	7 10 9 4 9 10 11 4 11 ○の中の数字は複本数		1. 新聞誌名 A: 朝日 M: 毎日 Y: 読売 2. 補助資料 k: こんな本あんな本 y: よい本のリスト 3. 予備	* 1. 選定図書速報 2. 課題図書 3. 受賞図書

公共図書館児童室の図書選択の現状と問題点

第6表 9 館 保 有 図 書 (一部)

	T I T L E	S	P	B	N		T I T L E	S	P	B	N
'73	愛の旅だち㊟	✓			k y	—	いっすんぼうし	✓	B	5	
—	あしながおじさん	✓		5		—	イワンのばか			6	
'62	あふりかのたいこ		L	6		—	ウサギどんキツネどん	✓		5	
'69	あらしの前・あらしのあと	✓		5		'68	馬ぬすびと	✓		1	M
—	アラビアン・ナイト	✓		3		'65	うみねこの空㊟	✓	K		
'69	あるきだした小さな木	✓			AM	'69	浦上の旅人たち㊟	✓	B・H		AMY
'61	アンディとらいおん	✓		5		'64	エルマーのぼうけん㊟	✓		8	
—	アンデルセン童話集	✓		3		'71	おいしいみずのぼうけん				A Y
'61	アンナプルナ登頂			1	Y	'72	オイノコは夜明けにほえる				AMY
'74	いさごむしのよっこちゃん㊟					'73	王のしるし	✓			A M ky
'72	いしづみ		B・L		M	'70	大きい一年生と小さな二年生㊟			1	A
—	イソップ	✓	K	5		'69	おおきくなりすぎたくま	✓		2	A
'64	いたずらこねこ	✓		3			・				
'68	いたずらラッコのロッコ㊟						・				

㊟課題図書

1) 9 館保有図書

9 館が所蔵している図書の傾向をみると、

総冊数	186 冊
選定図書速報掲載	143
課題図書	37
受賞図書	32
絵本	59
ノンフィクション	14

絵本が全体の3分1を占め、低学年向き読物を含むと過半数となり、一方高学年向きではここ数年の課題図書か名作ものがほとんどである。ノンフィクションが少ないのも目立つ。又ブックリスト推選図書である120冊をみると、5ブックリスト以上推選が55冊、91冊までが、3ブックリスト以上推選となり、推選数の高い本が多く入っている。

2) C クラス図書

総冊数	95 冊
選定図書速報掲載	33 (1974年掲載13冊)
新聞書評推選	60
ブックリスト推選	22
課題図書	12
受賞図書	13
絵本	22 (1974 年 6)
ノンフィクション	20 (1974 年 5)

各図書館のCクラス図書所蔵冊数

昭 島	55 冊 (1974年出版25冊)
中 野	48 (16)
台 東	35 (11)
深 川	32 (11)
目 黒	30 (9)
千代田	22 (6)
板 橋	19 (4)
宮の下	14 (7)
奥多摩	7 (0)

このクラスの図書のうち、28冊までが1974年に出版されたものであるから、まだ受け入れられていないという可能性もあるので、(昭島が購入が早く、ほとんどの新刊書を入れているということが上の結果からわかる) この28冊を除いて考えると、新聞による推選図書は、ブックリスト推選図書の2倍以上ある。しかし推選誌数は、わずかで、2誌もしくはそれ以下となっており、例外としては、「あそぼうよのえほん」(2誌と1補助資料)「いぬと王様」(3誌)の2冊のみである。又ブックリストに推選された本においても大体が3ブックリスト以下の推選しか受けていず、例外として「のうさぎフルー」(4ブックリスト)1冊のみである。

Cクラス図書は、このようにブックリストや新聞による推選数が少ないという結果がでたが、同様に「選定図書速報」の推選数も少なくなっている。

Cクラス図書となった原因として、こうした作品の中

第7表 C ク ラ ス 図 書

T I T L E				S	P	B	N	T I T L E				S	P	B	N
4 館 所 蔵								3 館 所 蔵							
'73	あそぼうよのえほん						AY k	'74	あほろくの川だいこ						MY
'70	アリの子ツク						AM	'74	いっばいのひまわり						AY
'74	アルプスの村の犬と少年	✓					A k	'74	兎の眼						AY
'70	生きている石器時代	✓		1			Y	'73	海のあした						MY
'74	インダイしまごろう	✓					AY	'74	かくされた自然						AY
'72	いちにちにへんとおるバス		B				Mk	'74	紙すきシバテン						A k
'72	いぬは王様						AMY	'74	きりかぶの赤ちゃん						Y y
'69	宇宙飛行あんない						AY	'65	雲の中のにじ㊦		F				
'74	うつくしいえ	✓					AM	'63	ジェイミーの冒険旅行㊦	✓					
'71	海のおくりもの	✓					AY	'74	スズムシ	✓					AY
'68	海辺の動物	✓					AM	'65	太郎とクロ㊦	✓					
'72	おじいさんの出場						AY	'71	とべ!ここがぼくらの町だ						MY
'74	おやすみドン	✓					AY	'62	日本人のこころ㊦	✓					
'74	オリオン通りのなかまたち	✓					MY	'74	人魚のくれたさくら貝						AY
'72	木やりをうたうきつね						AM	'64	のうさぎフルー	✓		4			
'59	雲の墓標			2				'74	のんびりチャボときかんぼマッ	✓					MY
'74	くろねこクロの日よう日						Mk	'74	ひまわり愛の花						Y y
'72	心のふれあい	✓					AM	'74	風雲ハサミ剣法						Y y
'72	さよならくまえもん						MY	'74	frisビーおぼさんとニムの家	✓					AY
'74	しょうにゅうどう探検	✓					AM	'74	むぎひとつぶ						MY
'65	少年少女のために文化論㊦							'74	雪ワラシコのきた里						AY k
'60	人類の誕生		L	1				'73	竜宮へいったトミばあやん						AM
—	ぞうさんババール			3				2 館 所 蔵							
'74	大地に埋もれた歴史						AM k	'69	いってしまったこ	✓					AY
'72	だるまちゃんとうさぎちゃん	✓					AY	'69	き		L				Y
'59	チャップリン			2				'67	クリちゃんのアフリカ旅行	✓	B				A
	てんぐのこま			2				'74	すつとびきつね	✓					Y y
'71	中浜万次郎の生涯						AM		たあんきぼおんき					2	
'68	日本の民話	✓					AY	'62	つきをいる		L			2	
'71	人間・野口英世	✓					AY	'63	とんだトロッポ					2	
'72	人間らしく働く						AM	'59	なかよし特急		L			2	
'63	パンのみやげ話㊦		K					'73	はるかなる地平線						M k
'66	ビーうみへいく			3				'74	春のシュトルム						AM y
'73	百万石のうらばなし	✓					AY	'59	ビーバーの冒険	✓		3			
'74	ピンクのくじら						Mk	'64	まあちゃんと子ねこ㊦						
'74	ぶたのしあわせ						AY	'61	南の風の物語	✓	E	1			
'74	ふるさとに生きる	✓					MY	'66	山芋			2			
'74	ぼっぺん先生と帰らずの沼	✓					k y	'71	幼年カラー百科						AY
'63	南の浜にあつまれ㊦	✓					AY	'74	若いこだま						AY
'73	森でみつけた白い舟						Y k								
'64	りすのパナシ	✓		3											

公共図書館児童室の図書選択の現状と問題点

第7表 (続き)

T I T L E				S	P	B	N	T I T L E				S	P	B	N
1 館 所 蔵								'65	カーチャと小わに㊤						
'62	おおきなかぬー		L	1				'62	古代文明の発見㊤						
'72	どうぶつあれあれえほん					MY		'73	さよならパリさよならカトリーヌ						Mk
'51	動物の子どもたち	✓	D			Y		'62	小公子㊤	✓					
'65	まいごのちろ			2				'58	少年少女世界の旅					2	
所 蔵 館 0								'62	チベット旅行記㊤	✓					
'59	アイヌの物語			3				'58	にあんちゃん					2	
'58	いたずらうさぎ		N	2				'69	美濃と飛驒のむかし話						AM
'62	うちゅうの七にんきょうだい		L	2					やまなしもぎ					2	

には、作者がその前に出した作品に高い評判を得た、あるいはすぐれた作品の多いシリーズ中の1冊、その時期に問題となっている主題を扱っているものも多い。

c. 選定図書速報

総冊数	216 冊
課題図書	15
受賞図書	11
絵本	44
ノンフィクション	50 (絵本 9)

各図書館における保有冊数

昭 島	208 冊
中 野	207
深 川	187
目 黒	179
台 東	177
千代田	167
調 布	139
板 橋	125
奥多摩	58

調査中、その選書に特に大きな影響を与えている2つの要素があることに気がついた。課題図書がまずその1つで、もう1つが調査館9館中7館までが、選択ツールとして使用している「選定図書速報」の影響である。そこでブックリストの集計図書で「選定図書速報」に掲載されたものの傾向をこの2〜3年(1971—1974)に限ってみていくと、このうちのCクラス図書19冊中、14冊までが1974年のものであり、又1974年度中8冊あるAクラス図書をみると、そのうち3冊までが課題図書で、「いっせいに花咲く街」は3誌推選それ以外は比較的最早い時期に出版されているか、シリーズものであり、前述

のようにまだ受け入れられていないものが多いと思われる、比較的、バラつきが多いため、特に1973年以降のものをみていくと、1973年は、71冊中「海底二万里」・「心のふれあい」・「だるまちゃんとうさぎちゃん」・「海のおくりもの」・「人間・野口英世」の5冊がCクラスで、いずれも2誌推選であるが、意外と思われるのが、人気の高い加古里子の「だるまちゃんとうさぎちゃん」であるが、これは最近著者のだしている出版社とは異なった出版社の再版であるため、その存在を知らなかったところもある。これ以外の4冊は、いずれも高学年向きである。

Aクラスでは、まず12冊の課題図書の11冊までがこのクラスであるという点からやはり課題図書の影響が大きいことがわかる。しかし1971年から1974年にかけて課題図書は36冊あるが、「選定図書速報」に載ったのは、その半分にもならないという結果もでている。その他Aクラスの図書に絵本が19冊含まれている。又「いしぶみ」・「遠い朝」は1誌のみ、「男たちの海」は「よい本のリスト」のみの推選であるが、いずれも受賞図書である。しかし3誌以上の推選を得ても、Bクラス以下という図書もある。「中学時代」・「夕焼けの記憶」・「六年二組の春は…」・「あすはいつくるか」・「ケンチとユリのあおい海」・「公害」・「メンロパークの魔術師」の7冊でやはりいずれも高学年向きであり、中規模以下の図書館が購入していない。

以上の例から、「選定図書速報」に載った図書のAクラスの占める割合が大きいという結論ができるが、特にこれは、絵本や幼児・低学年向きの本に限るとより顕著なものとなり得る。

d. 出版社

名作や古典といわれる図書は、多くの出版社が競って出版している。したがって図書を選ぶとき、このことを考慮しなくてはならない。したがってそういった作品(3 出版社以上から出版)の各図書館における出版社の傾向をみると、岩波書店の本が圧倒的に多く、次いで福音館がその独自の作品を確実に受け入れられている。大日本図書やポプラ社も充実した傾向を示している一方、偕成社と講談社のように、名作ものといえば数多く出版し、どこかの図書館には必ず受け入れられているものの、全体的にその保有館数が低いところもある。

次に、各作品の出版社の傾向をみると、1 社の本に圧倒的支持のある本、多くの出版社で分散されている本、2 社あるいは3 社に固まっている本の3 種類あり、1 番めの傾向をもつものは「名犬ラッド」・「黒馬物語」(岩波)、「コタンの口笛」(東都)、2 番めは「キュリー夫人」(偕成社・金子・国土・ポプラ etc.)・「グリム」(岩波・学研・講談社 etc.) 3 番めとしては「ウサギどんキツネどん」(岩波・大日本)・「いっすんぼうし」(福音館・ポプラ・講談社) などである。

又、ブックリストの集計で多くの支持を受けたものとは異なった出版社による本が比較的多く受け入れられていることが傾向としてあるが、特に受賞図書では、はなはだしく、「いっすんぼうし」は至光社で賞を受けているが、現在その本を所蔵している図書館はない。「おじいさんのランプ」は大日本図書で受賞しているが、現在岩波が上回っている。中央公論で受賞した「ビルマの豎琴」は、旺文社、あかね書房が多く、受賞時の本を所蔵していたのは、奥多摩だけで、その他の図書館には見当らなかった。

e. 児童文学者

ブックリストの集計には、その作品が数多くとりあげられている作家がいる。これらの作家の図書館所蔵率等を4 ブックリスト推選者までについてまとめた。

1) 作品の過半数がAクラス

石井桃子・岩崎京子(100%)・斎藤隆介(83.3%)・佐藤さとる(77.8%)・中川李枝子・山中恒(75%)・いぬいとみこ(71.4%)・寺村輝夫(66.7%)・神沢利子(58.3%)・渡辺茂男(57.1%)・古田足日(55.6%)

2) Cクラスを含まない作家

石井桃子・岩崎京子・斎藤隆介・佐藤さとる・中川李枝子・山中恒・いぬいとみこ・寺村輝夫・神沢利子・渡辺茂男・古田足日・たかしよいち・今西祐行・那須田稔・あまんきみこ・板倉聖宣・小林清之介・松岡洋子・松

岡享子。

第8表 ブックリスト推選の多い児童文学者

☆	作家名	☆	作家名	☆	作家名
20	松谷みよ子		今江祥智		早船ちよ
15	加古里子		今西祐行	4	岩崎京子
13	長崎源之助		前川康男		大川悦生
12	神沢利子		渡辺茂男		岸武雄
11	椋鳩十	6	斎藤隆介		生源寺美子
10	たかしよいち		寺村輝夫		松岡洋子
9	岡野薫子		那須田稔		松岡享子
	佐藤さとる		あまんきみこ		山中恒
	古田足日		板倉聖宣		
8	中川李枝子		後藤竜二		
7	石井桃子		小林清之介		
	いぬいとみこ		さねとうあきら		

☆ ブックリスト集計掲載数

3) 課題図書に2回以上選ばれた作家

今西祐行(4)・那須田稔・松谷みよ子・長崎源之助(3) 神沢利子・前川康男・岩崎京子(2)

4) 受賞作家(2賞以上)

松谷みよ子(7)・佐藤さとる(5)・中川李枝子・今西祐行(4)・加古里子・椋鳩十・前川康夫・松岡享子(3)・岡野薫子・石井桃子・いぬいとみこ・今江祥智・渡辺茂男・斎藤隆介・あまんきみこ・早船ちよ・岩崎京子・山中恒(2)

3. 特殊資料受け入れ実態

a. ノンフィクション

ノンフィクションと一口に言っても、その中には算数のことについて書かれているものや、歴史についてのもの、理科の本、そして伝記の本など様々な主題のものがある。又、図書館の資料として、その部門で新しい本がでたらすぐに購入したり、取り換えなくてはならないものもあるし、ある部門では、著者の思想をくみとって“同じ主題でも相反する立場をとるものがでてくることを知らなければならない。”¹⁵⁾そして対象となる子どもたちに与える時どの程度その主題は簡略化されているか、あるいは、大きな子どもに与える場合どの程度まで難

公共図書館児童室の図書選択の現状と問題点

しくできるかなどであるが、実際、高学年の子どもになると、その要求は、非常に高くなっていくのであるが、どうしたら現在の出版状況の中でその要求に答えることができるかなど多くの困難な問題を抱えている。実際に児童室をみても、多くの男の子は、入ってくると、ノンフィクション（特に4類・7類）のあたりをうろうろしている。又どの図書館員も人気のある本の中に、昆虫の本や実用書を挙げている。したがってほとんどの図書館員は、そういう状態をよく知っているし又それに答えよう

と努力している。蔵書構成のうち、台東・板橋・調布では3分の1、又中野では40%、深川では50%も占めているし、昭島では、新刊書はすべて購入という点から考えてみると、相当多くの量が入っていると思われる。

しかしブックリストの集計では、141点で全ブックリストの集計の15%を占めるだけである。このように多くのブックリストをみても、ノンフィクションの占める割合はわずかで、その専門ブックリストもあまりでていない。ノンフィクションにおいて最も重要なこと

第9表 ノンフィクション—自然科学 (4)

T I T L E	S	P	B	N	L	T I T L E	S	P	B	N	L
学問の花ひらいて㊤				AMY	9	スズメとり大作戦				AM	7
かわ*			L	2	9	せいめいのれきし*			5		7
クモの糸*	✓			AM	9	にわやこうえんにくるとり*	✓			A	7
原生林のコウモリ㊤	✓			AM	9	はち	✓			k y	7
ジャガイモの花と実	✓				9	ヒマワリのかんさつ	✓			AM	7
少年少女ファープル昆虫記	✓		4		9	ふたござるスクスク日記	✓			AMY	7
食虫植物のひみつ	✓			A Y	9	マンモスをたずねて㊤	✓			y A Y	7
野尻湖のぞう*	✓			A Y	9	森の新聞	✓		2		7
はなれざるドド㊤	✓			AM	9	生きている自然	✓			AM	6
ウドンゲのなぞをとく*㊤	✓				8	シートン動物記	✓			A Y	6
海*	✓	B		A	8	人類最後の日		L		M	6
貝の科学	✓	L		A	8	スズメの四季	✓		2		6
こども野鳥記	✓			AMY	8	すばらしい世界の自然	✓			AM	6
じめんのうえとした*	✓			MY	8	大地の動きをさぐる				k y	6
ぞう*	✓			AM	8	月夜のかりうど*				A Y	6
ゾウの大旅行	✓			AM	8	動物時計とコンパス	✓			AMY	6
ドロバチのアオムシがり㊤				k	8	人間のからだといのち				A k	6
ひれから手へ㊤	✓			AMY	8	星のかりうど	✓			AM	6
ファープル昆虫記	✓			Y y	8	青い光のひみつ*	✓			MY	5
ぼくらはガリレオ	✓			MY	8	いのちを守る				A Y	5
ホタルの歌㊤	✓			AMY	8	数は生きている	✓			A Y	5
牧野富太郎植物記	✓			A	8	ビタゴラスから電子計算機まで㊤				A Y	5
森のひびき	✓			k y	8	ふしぎな石ーじしゃく	✓			y	5
足のうらはをはかる	✓	L		MY	8	野鳥の四季				A Y	5
阿蘇のキツネ	✓			A Y	7	野鳥の四季				AM	5
生きている火山*	✓			A k	7	アリの子ツク				AM	4
エコーという名のイルカ	✓			AMY	7	宇宙飛行あんない				A Y	4
オジロワシを追って	✓			y	7	海辺の動物	✓			AM	4
火曜日には火の用心	✓			k y	7	しょうにゅうどう探検				AM	4
クリの木の太陽*	✓			AM	7	人類の誕生	✓	L	1		4
幸島のサル	✓			A Y	7	かくされた自然				A Y	3
シートン動物記	✓	L		AMY	7	スズムシ*	✓			A Y	3
	✓		5		7						

は、正確さである。又そればかりでなく特に歴史や伝記についていえることであるが、“すぐれたノンフィクションはフィクション同様テーマをもっている”¹⁶⁾のもであり、その点から考えると、その選択基準は、むしろフィクションよりも難しいといえるかもしれない。この難しい種類の選択がどのようになされているかをみると、調査では、多くの図書館が他の物語本と同じように選定しているということである。又台東では、昭島同様ノンフィクションに関して、出版された本のほとんどを購入しているということである。又高学年の要求に答えるという意味で独特の方法をとっているのが深川で、ここでは子ども向きノンフィクションの中には子どもだましの様な種類もあるということ、子どもの本以内とは限

定せずに、スポーツ・写真・切手・旅行のガイドブック・鳥・小動物などに関する本は、主に成人用図書の初級や比較的写真の多い本をとり入れている、といった努力がなされているところもある。

次に、ブックリストの集計をみていく際、それぞれの主題で性格が異なるため、自然科学・歴史地理・伝記・その他を分けてみていきたい。

1) 自然科学(4類)

Aクラスでは、ほとんどの図書が「選定図書速報」で推選され受賞、課題図書も集中し、下位にいくほど少なくなっている。しかしこのうち「学問の花ひらいて」・「かわ」は例外で「選定図書速報」には載っていないが、「学問の花ひらいて」は課題図書、「かわ」は受賞図書か

第10表 ノンフィクション—歴史・地理・伝記(2)

T I T L E	S	P	B	N	L	T I T L E	S	P	B	N	L
歴史・地理						伝記					
アンナプルナ登頂			1	Y	9	ガンジー伝	✓		3		9
人間の歴史	✓		5		9	シュヴァイツァー	✓		3		9
エヴェレストをめざして	✓		4		8	白い大地㊦					9
大昔の狩人の洞穴			7		8	ウタリーの星	✓	C		MY	8
沖縄の夜明け	✓			AM	8	(エイブ) リンカーン	✓	L	6		8
心の灯		L		AY	8	大蔵永常㊦	✓			AY	8
大仏建立物語	✓			MY	8	たたかいの人	✓			AMY	8
天正の少年使節㊦					8	野口英世	✓		2		8
沖縄の歩み	✓			AY	7	夢を握りあてた人	✓		5		8
海賊				AM	7	祖国へのマズルカ㊦	✓				7
砂漠となぞの壁画㊦			1		7	ペニシリンの戦士	✓			AY	7
縄文・弥生時代の日本人	✓			Ak	7	めっちゃ医者伝	✓			AM	6
辰巳用水をさぐる	✓			AM	7	若き英雄㊦	✓			MY	6
埋もれた日本	✓	I	2		6	宇宙を開発した人々			2		5
シンパと森の戦士の国㊦	✓				6	ぼくたちのシュヴァイツァー	✓		3		5
戦争と人間のいのち	✓			AMY	6	メンロパークの魔術師	✓			AMY	5
なむあみだぶつ戦争				AY	6	ロマン・ロランの生涯		L		Yk	5
死の艦隊㊦	✓			Y	5	渡辺華山㊦	✓				5
先史時代の洞窟人				MY	5	チャップリン			2		4
父と母の歴史	✓			AY	5	中浜万次郎の生涯				AM	4
日本の夜明け	✓			AY	5	人間・野口英世	✓			AY	4
生きている石器時代	✓		1	Y	4						
大地に埋もれた歴史				AM	4						
日本人のこころ㊦	✓				3						
チベット旅行記㊦	✓				0						
バラオの海とサンゴ礁	✓			AY	6						

公共図書館児童室の図書選択の現状と問題点

つ絵本であることで説明がつく。というのは、この分野の特徴として科学絵本といわれる絵本がでている。そしてブックリストの集計中 14 冊の科学絵本のうち 11 冊までが高い保有館数を示しているからである。低学年用のノンフィクションが少ない状況にあって、科学絵本には、人気が集まると思われる。そしてこの分野においては、「選定図書速報」への依存度が高いという結果がでている。

2) 歴史・地理(2類)

自然科学とは異なり、「選定図書速報」推薦図書、受

賞、課題図書は、分散している。Aクラスのうち「人間の歴史」「エヴェレストをめざして」「大昔の狩人の洞穴」の3冊は、多くのブックリストの評価を受けているノンフィクションにおける古典といえる作品である。同様に伝記や哲学、社会科学もノンフィクションにおいては古典の生まれる可能性をもった分野であるが、同時に図書館にとっては選択の難しい分野でもある。

3) 伝記

以前は、伝記というと被伝者の名前が書名であり、又その種類もいわゆる“私たちの尊敬する有名な人”たちが

第11表 ノンフィクションーその他(0・1・3・5・6・7・8)

TITLE (0・1・3 類)	S	P	B	N	L	TITLE (5・6・7・8 類)	S	P	B	N	L
ギリシア・ローマ神話	✓		6		8	しお*	✓			AY	9
憲法を考える	✓			MY	8	塩	✓			AY	9
心の底をのぞいたら	✓			y	8	公害のはなし㊤	✓			AM	9
君たちの天分を生かそう㊤	✓	B		AM	8	地球は青かった㊤	✓		3		8
少年朝日年鑑	✓	L		Y	7	幸運な失敗		L		A	8
日本神話	✓		2		7	スポーツの夜明け㊤				AM	8
恋愛なんかやめておけ	✓			AM	7	超高層ビルのあけぼの	✓		2	k	8
子どもの祭り	✓			AM	6	つきへいくロケット*	✓			AY	8
君たちを生かす職業	✓		1	A	5	28 年めの卒業式	✓			MY	7
君はどんな性格か	✓			Yk	5	ガラスの川				AY	6
石油と砂漠の国々				AMY	5	スポーツとは何か				MY	6
心のふれあい	✓			AM	4	演劇とは何か	✓			AM	5
少年少女のために文化論㊤					4	黒部ダム物語㊤	✓				5
人間らしく働く				AM	4	公害	✓	L		AMY	5
ふるさとに生きる	✓			MY	4	のんびりチャボときかんぼマック*	✓			MY	3
幼年カラー百科				k y	2						
				AY	2						

* 絵本

総冊数	141 冊
課題図書	26
受賞図書	12
絵本	18
分類別冊数	
4 類	63
2	26
289	21
1	8
5	8
3	6
7	4
0	2
6	2
8	1

各図書館における保有冊数	
昭島	131 冊
目黒・中野	122
深川	115
千代田	108
台東	106
板橋	93
調布(宮)	77
奥多摩	53

多かったように思われるが、その書名を見ただけでは、伝記が普通の読物かわからないような本が最近の傾向として多くなっている。そしてあまり“有名！”ではない”ような人々もたくさんとりあげられるようになり、被伝者に何らかの形容詞がつけられ個性的な書名が多くなっている。第9表をみるとやはりガンジー、シュヴァイツァーといった伝統的な偉人が高い人気をもっている。Aクラスの作品は、課題図書、受賞図書をのぞくと伝統的に人気のある被伝者であることがわかる。又2門全体についていえることであるが、傾向として、沖縄、アイヌ関係を扱った本がブックリストの集計図書内に限らず多くの図書館にあり、集計内照合においても上位を占めている。

4) その他—1 (0・1・3 類)

この分野では全般的に保有館数が低くなっている。ほとんどが小学校中学年以上向きであるということも原因の1つと考えられる。

5) その他—2 (5・6・7・8 類)

2類同様 10 年以上前の課題図書であったノンフィクションは今ではほとんどCクラスであるが、その例外として「地球は青かった」がある。

又1971年に公害に関する2つの作品「公害のはなし」「公害」が出版されているが、両方とも「選定図書速報」及び2誌の推薦を受けているが前者が課題図書であるために、Aクラスで一方はBクラスという対象的な結果がでている。「公害」を入れている5館は深川・昭島・中野などであるから、Aクラスに入るべき本ではないという決定的要因はないはずである。したがって課題図書の影響はこういうところにも顕著にでている。

b. 受賞図書

全125冊中Aクラス保有率が55%と非常に高いのは調査した全9館は選書の際受賞図書という点に関しては全く考慮に入れないと回答しているものの、無意識にでも考慮に入っているということも考えられ、又選択する時期には、受賞がまだ決まっていない作品もあるはずであるから、やはり優れた作品が多いとも考えられる。

しかし、賞の種類や受賞年などによってそれぞれ事情は異なるが、その作品が「選定図書速報」の推薦を受けているかいないか、又課題図書であるかないかということも選書の際の大きな要因となる。そして課題図書(後述)ほど顕著ではないが、利用者(特に親)の要望もけっこう多いということも原因といえる。

又Aクラスに属するものの内容をみても、ブック

リストの推薦冊数の高いものが、やはり保有館数も高く、5ブックリスト以上の支持を得ている作品はほとんどAクラスである。しかし新聞3誌推薦の作品の「ともしびをかかへて」・「赤い帆の舟」という例外がある。前者を所蔵しているのはわずか3館で後者は5館である。わずか2冊だけの例であるが、たとえ新聞3誌の推薦を受け、賞を受けても、すべての図書館員が受け入れるとは限らないということがわかる。

次に、Cクラスに属するものは、すべて古い作品であるか、作品自体の評価はいまだに高いが出版社が、その受賞時の出版社とは、異なっているものが、ほとんどである。

サンケイ児童出版文化賞で1963年の大賞を「こどものとも 72-83号」全12冊が受けているが、この12冊(ブックリストの集計にでてきたものは11冊)の行くえがおもしろい対照をなしている。同じ大賞を受けながら、「うちゅうの七にんきょうだい」は0館、「つきをい」2館、「おおきなかぬ」1館、と保有館数が低い。その他は「てんからふってきたたまごのはなし」の7館保有をのぞき、すべてAクラスである。この受賞時から12年めの現時点の対照的な状況をブックリストの集計は示している。Cクラスになっている図書及び「てんからふってきたたまごのはなし」のブックリストの支持数は2冊以下であり、現在Aクラスの図書の支持数は「かもとぎつね」を除いて4冊以上である。

2賞以上の受賞図書に関してみていくと、「キューボラのある街」・「いしふみ」・「でんでんむしの競馬」の例外を除き、その保有館数は、ブックリスト及び新聞の推薦数とほぼ比例している。特に「でんでんむしの競馬」は4賞も受賞しているために、多くのブックリストがとりあげているように思えるが、新聞、ブックリストをさがした結果「よい本のリスト」にやっとでできたぐらいに、支持率が低くなっている。そして「選定図書速報」にも載っていない。しかし9館全部が保有しているところから察すると、「いやいやえん」の及ぼした前例の影響もありそうであるが、現時点において、ほとんど読まれていないそうである。

c. 課題図書

課題図書の正式名称を「青少年読書感想文コンクールのための課題図書」といって1955年に全国学校図書館協議会によって始められた。そしてこの課題図書は、第8回(1962年)から設定され、今年で20回を迎えたが、毎年初夏になると、「毎日新聞」に、特集として大きく紹

公共図書館児童室の図書選択の現状と問題点

第12表 受賞図書

P	T I T L E	S	B	N	L	P	T I T L E	S	B	N	L
注A	ノンちゃん雲にのる	✓	1		8		さらばハイウェイ	✓		M	8
	坂道		2		9		赤い帆の舟			AMY	5
B	君たちの天分を生かそう㊦	✓		Y	7	J	ひろしまのオデット	✓		A	7
	いっすんぼうし		(5)		0	K	パンのみやげ話㊦				4
	水つき学校㊦	✓			6		うみねこの空㊦	✓			9
	ぐりとぐらのおきやくさま		6		7		てんぶらびりびり		1	Y	8
	アーサーランサム全集	✓	5		9		わたし日記を書いたの	✓		AM	6
	クリちゃんのアフリカ旅行	✓		A	2		鯉のいる村	✓		MY	8
	ありこのおつかい			MY	8		千本松原㊦	✓		AM	8
	はだかの天使	✓		A	8	L	少年朝日年鑑	✓		A	7
	ともしびをかかげて			AMY	3		エイブ・リンカーン		(6)		6
	海	✓		A	8		レミは生きていく		2		6
	花さき山	✓		AMY	8		日本民話選		2		9
	ゆかいなヘンリーくんシリーズ	✓	3		8		なかよし特急		2		2
	とこちゃんはどこ	✓		AM	7		人類の誕生	✓	1		4
	ねしょんべんものがたり	✓		AMY	8		うちゅうの七にんきょうだい		2		0
	りんごのき	✓		MY	9		かもときつね		2		8
	いちにちにへんとおるバス			M	4		おおきなかぶ		7		9
	男たちの海			y	8		だいくとおにろく		5		8
C	シラサギ物語㊦	✓	1		8		かわ				9
	天使で大地はいっぱいだ㊦				8		あふりかのたいこ		6		9
	遠い朝	✓		Y	8		かばくん		7		9
	ポケットの中の赤ちゃん	✓		MY	5		つきをいる		2		2
	ウタリーの星	✓		MY	8		てんからふってきたたまごの		2		7
	燃えながら飛んだよ!				5		はなし				
	カポンをはいたけんじ			A Y	6		おおきなかぬー		1		1
D	動物の子どもたち	✓		Y	1		ゆきむすめ		4		8
	原爆の子		2		5		ケストナー少年文学全集		8		8
	ながいながいペンギンの話	✓	10		8		ももたろう	✓	(5)		6(9)
	ぼくは王様	✓	4		8		貝の科学	✓		A	8
	アイヌ童話集	✓	3		7		まぼろしの白馬	✓	3		6
	いないいないばあ	✓	2		7		ヤンと野性の馬	✓	1		9
	ふなひき太良			AMY	7		三びき荒野を行く㊦	✓	2		6
F	雲の中のにじ㊦				3		リンドグレーン作品全集	✓	6		9
	目をさませトラゴロウ	✓	2		8		ナルニア国ものがたり	✓	4		9
H	ネーとなかま	✓		Y	5		ロマン罗兰の生涯			Y	5
	地べたっこさま		1	M	8		11 びきのねこ	✓		AMY	9
I	埋もれた日本	✓	2		6		やまとたける	✓		A Y	8
	宿題ひきうけ株式会社		4		9		砂㊦	✓		Y	9
	ヒョコタンの山羊			Y	6		天保の人々㊦	✓		Y	9
	くる助㊦			Y	5		き			Y	2
	魔神の海㊦	✓			9		いやだいやだの絵本			Y	8
							心の灯			A Y	8

P	T I T L E	S	B	N	L	P	T I T L E (2 賞以上)	S	B	N	L
M N O P	ちょうちん屋のまっ子			AMY	8	A・D	ビルマの竖琴	√	(2)		1(9)
	ちいさなきいろいかさ	√		AM	8	B・H	赤毛のポチ	√	3		8
	足のうらをはかる	√		AY	7	B・H	浦上の旅人たち㊦	√		AMY	9
	しあわせどおりのカナリヤ			M	6	B・I	キューボラのある街		4		6
	憲法を考える	√		MY	8	B・L	いしぶみ			M	9
	まぼろしの巨鯨シマ㊦			y			海の日曜日㊦				6
	幸島のサル	√		AM	7		くしゃみくしゃみ天のめぐみ	√		AY	9
	天の園	√		A	6		スーホのしろいうま	√	4		9
	幸運な失敗			A	7		寺町三丁目十一番地	√		AM	9
	人類最後の日			M	6		ヤン	√		Y	6
	八月がくるたびに㊦			MY	8	B・N	やまんばのにしき		3		9
	ちいさな雪の町の物語	√		M	7	B・P	マヤの一生	√		AM	8
	いたずらうさぎ		2		0	C・L	竜の子太郎	√	7		9
	まいごのちろ		1		1	D・H	だれも知らない小さな国		9		9
	ふかい雪の中で			MY	8	D・L	新美南吉童話全集		3		5(9)
	明夫と良二			MY	8	E・L	コタンの口笛		2		8(9)
						F・I	肥後の石工㊦	√	1	Y	7
						F・K	小さいモモちゃん	√		AM	9
						F・L	銀色ラッコのなみだ㊦	√			8
						H・K	車のいろは空の色			MY	9
						J・M	二年2組はヒヨコのクラス			Y	7
						BKN	おばあさんのひこうき㊦	√			9
						I L P	小さい心の旅			MY	8
						B F	いやいやえん	√			8
						K L					
						B I				y	9
						L P	でんでんむしの競馬				

総冊数 125 冊
 課題図書 20
 ブックリスト推選図書 50
 新聞推選図書 65

注 A 芸術選奨文部大臣賞
 B 児童福祉文化賞（厚生大臣賞）
 C 講談社児童文学新人賞
 D 毎日出版文化賞
 E 未明文学賞
 F NHK児童文学賞

(G 日本児童文学者協会賞)
 H 児童文学新人賞
 I 日本児童文学者協会賞
 J 日本児童文学者協会短篇賞
 K 野間児童文学賞
 L サンケイ児童出版文化賞
 M 小学館文学賞
 N 小学館絵画賞
 O 北川千代賞
 P 赤い鳥文学賞

介され、書店には選ばれた9冊の児童書が盛大に並べられる。

この課題図書は、日本の優れた創作児童文学を普及させる上で大いに貢献したことを多くの人は認めているが、同時に、もうその役割は終わり、今では、弊害しか残っていない、もうやめてしまった方がよい、あるいは、大きく改め直した方がよいという意見も多くでている。その問題点をいくつか挙げてみると

- その選考過程においては、不明朗でガラス張りではなく、選択基準、選択者などが全くわからない。
- 作品も、読書感想文の書き易いようなパターン化されたものが好んで選ばれる。そして小学生にとっては、面白味のないような作品が多く、本を読んだら感想文を書かされるという点からも読書嫌いの大きな原因となり得る。

公共図書館児童室の図書選択の現状と問題点

- ・ 毎年平均して1社ずつ選ばれるが、このことは、出版社や作家においても、死活問題となり、多くの作品の傾向が課題図書向きのものとなってしまうのである。
- ・ マスコミを媒体として選択をおこなった場合、その選択者たちの意図に反して一つの権力となってしまう危険性

などまだ多くの問題点が挙げられるが、読書活動の発達している今日、課題図書の今後の方向について考え直さなければならない時期にきていると思われる。

調査館における現状をみると、購入の際、考慮にいけないと答えたのは、千代田1館のみで、あとはすべてその年の課題図書は、購入しているということである。けれども宮の下では、前述のような課題図書の問題点に、納得がいかず、極力購入せずに頑張っていた時期もあったが、結局子どもたちや特にその親たちの強いリクエストで入れざるを得なくなったということである。他の多くの図書館においても疑問を感じながらも購入していると思われる。そして1冊ずつ購入するのであればそれ程問題ではないが、2冊以上いれないと利用者の要求には答えられないのが現実である。又10冊以上購入しても、夏休みをすぎるとおどろく程読まれなくなり、書架上に置かれたままになるのである。

深川では1冊は必ず入れることにしているが、低学年向きには、比較的良好いものがあるので最低限必要な限りの範囲で2〜3冊は購入している。目黒においても低学年向きを3〜5冊、高学年向きを2〜3冊購入している。昭島では年により、先生の宿題の出し方により、利用頻度は異なるが、一応全部購入している。奥多摩では、2〜3冊購入しているが、このような小規模図書館の2〜3冊の複本は大きい。

このようにほとんどの図書館が購入という現状は、すべてここ2〜3年の傾向である。

次にブックリストの集計照合結果をみると、Aクラス保有率は62.5%と非常に高い。このうち11.6%のCクラスは、課題図書のはじまった1962年から1965年の間にすべてはいる。

又、1964年まではその数は定まっていなかったが、1965年から1973年までは、9冊と決まり、1966年頃から盛んになり始め一進一退を続け1972年に絶頂期に入り1973年には、ピークを迎える。そして1974年には、その問題点となっているとりあげる図書数と出版社数に僅かばかりの改良を加えている。ほとんどの図書館にお

いて課題図書を購入するようになったのは、この2,3年であるということが、実際第13表でも明らかになっている。

この課題図書を時期で分けると1962年から1965年までを第1期（初期）、1966年から1968年までを第2期（発展期）、1969年から1973年を第3期（爛熟期）、1974年以降を第4期（改良期）ということになる。

まず第1期では、ブックリストの推薦数は少なく、現在図書館に残っているものも少ない。Aクラスで残っているものは、「飛ぶ教室」・「ねことオルガン」・「地球は青かった」・「エルマーのぼうけん」・「銀色ラッコのなみだ」・「シラサギ物語」の6冊のみで、そしてBクラス以上で残っているものはすべてブックリストにわずかでも推薦されているものであるし、又その作家をみると、外国の作品を考慮に入れなければ、現在、現役で活躍している作家ばかりである。

第2期にはいると、ブックリストの推薦状態は第1期とほぼ同じであるが、現在残っているものとブックリストの関係も同様である。又作家における傾向も2期は更に顕著になっている。しかし図書館のAクラス保有数が相対的に増し、Cクラスは姿を消している。又第1期及び第2期の作品においては、絶版あるいは、1970年以降に閉館（昭島・宮の下・板橋）された図書館の受け入れ状況によっても今後の行くえを察することができる。

第3期に入ると、Aクラスはそのほとんどを占め、その前期には新聞による推薦はわずかしみられないが、後期にはいると、3誌推薦の図書も多く見うけられるようになる。又図書館員の回答通りBクラスに入るものは、高学年向け以上ばかりで、その中でもノンフィクションが多い。

第4期は1974年度に入っただけで恐らく少しずつではあるだろうが、今後その様子が変わっていくだろうということが想像される。

d. マンガ

どこの公共図書館の選択においても、必ず直面しなくてはならないのがマンガの問題である。マンガを入れるか入れないかについては多くの人々、図書館員が論じ、討議しているが、マンガの種類、担当者の考えによって異なってくる。

マンガを全くおきたくないという意見もあれば、マンガ週刊誌に載っているストーリーマンガは、戦争物、色情挑発、テレビ追従物など残虐で、どぎつく、そしてグロテスクであるからという理由でそういった類のものは

第 13 表 課 題 図 書

T I T L E	S	P	B	N	L	T I T L E	S	P	B	N	L
第8回コンクール (1962)						フェー ज्याかえっておいで	✓				8
小公子					0	みどりのゆび	✓		2		8
チベット旅行記	✓				0	まえがみ太郎	✓				9
飛ぶ教室	✓		4		9	水つき学校	✓	B			6
君たちの天分を生かそう	✓	B		Y	7	肥後の石工	✓	F I	1	Y	7
古代文明の発見					0	うみねこの空	✓	K			9
少年の海	✓				5	渡辺華山	✓				5
第9回コンクール (1963)						第13回コンクール (1967)					
ねことオルガン	✓				9	おばあさんのひこうき	✓	B K N	4		9
ぼくらの出船	✓				7	びりっかすの子ねこ	✓				8
地球は青かった	✓		3		8	チムラビットのぼうけん	✓		2		9
ジェイミーの冒険旅行	✓				3	橋の下の子どもたち	✓				7
パンのみやげ話		K			4	アグラへのぼうけん旅行					8
黄金のパラオ	✓				8	天使で大地はいっぱいだ		C			8
日本人のこころ	✓				3	海の日曜日	✓	B L			6
第10回コンクール (1964)						ハンニバルの象つかい	✓				9
まあちゃんと子ねこ					2	シンバと森の戦士の国	✓				6
エルマーのぼうけん	✓		8		9	第14回コンクール (1968)					
南の浜にあつまれ	✓				4	ちからたろう					9
銀色ラッコのなみだ	✓	F・L	2		8	こびとのピコ	✓				8
シラサギ物語	✓	C	1		8	いたずらラッコのロッコ					9
黒部ダム物語	✓				5	うりんこの山					8
エルザの子どもたち	✓				1	チョウのいる丘	✓				5
第11回コンクール (1965)						砂漠となぞの壁画			1		7
カーチャと子わに					0	われらの村がしずむ	✓				8
太郎とクロ	✓				3	くろ助		I		Y	5
くまのプウル	✓		3		6	生命の神秘をさぐる					7
サーカスの小びと	✓				7	第15回コンクール (1969)					
ボールのあした					5	やまのこのはこぞう	✓				9
三びき荒野を行く		L	2		6	さとののじてんしゃ	✓				8
雲の中のにじ		F			3	リコはおかあさん	✓				9
ビタゴラスから電子計算機					5	太陽の子と氷の魔女	✓				8
まで					5	ゲンのいた谷	✓				8
少年少女のために文化論					4	大蔵永常	✓			A Y	8
第12回コンクール (1966)						死の艦隊・マゼラン航海記	✓				5
けんはへっちゃんら					6	天保の人々	✓	L		Y	9
ムスティクのぼうけん	✓				6	砂	✓	L		Y k	9

公共図書館児童室の図書選択の現状と問題点

T I T L E	S	P	B	N	L	T I T L E	S	P	B	N	L
第16回コンクール (1970)						ホテルの歌	✓				8
おにたのぼうし	✓				9	まぼろしの巨鯨シマ		L			8
大きい一年生と小さな二年生			1	A	9	公害のはなし	✓			AM	9
ふくろねずみのビリーおじさん	✓				7	ひとすじの道	✓			AMY	9
まがった時計	✓			AY	9	第19回コンクール (1973)					
ワシリィのむすこ	✓				9	小さな小さなキツネ					9
魔神の海	✓	I			9	お月さんももいろ				AMY	9
浦上の旅人たち	✓	BH			9	はなれざるドド	✓			AM	9
小さな魚					9	マキオのひとり旅					9
祖国へのマズルカ	✓				7	オイノコは夜明けにほえる				AMY	9
第17回コンクール (1971)						白い大地					9
かたあしだちょうのエルフ				AM	8	堀のある村				AMY	9
センナじいとくま	✓				9	原生林のコウモリ	✓			AM	9
八月がくるたびに		M		MY	8	学問の花ひらいて				AMY	9
春駒のうた	✓			AMY	8	第20回コンクール (1974)					
千本松原	✓	K		AM	8	いざごむしのよっこちゃん					9
天正の少年使節					8	そりになったブナの木	✓			AMY	8
もうひとりのぼく					5	とうげのおおかみ				Ak	8
若き英雄				MY	6	ドロバチのアオムシがり				AMk	8
マンモスをたずねて	✓				7	はしれ！おく目号					8
第18回コンクール (1972)						じろはったん	✓				9
モチモチの木					9	長鼻くんといううなぎの話	✓			AMY	8
ゆきごんのおくりもの					8	ひれから手へ	✓			k y	8
つむじまがりへそまがり					8	花咲か	✓			AMY	8
ウドンゲのなぞをとく	✓				8	愛の旅だち				k y	9
ひとりぼっちの政一	✓				8	スポーツの夜明け				AM	7
										k	

好ましくないという意見もあり、図書館でもこういう種類のマンガは置きたくないという方針である。しかし利用者の要求や、児童文化の資料のためにも置いても構わないという見解もある。一方そういったどぎついものは置かないが、「サザエさん」・「鉄腕アトム」といった種類のマンガなら置くところが多いようである。そしてある程度の学習マンガは置いていところもあり様々な状況を呈している。調査館においてもマンガの選定はむずかしく、大体において、まず建前があり、それから実際があるといった状態である。

まず台東では「サザエさん」・「いじわるばあさん」は入れるがそれ以外は原則として認めないということにな

っているが、自動車文庫（児童室とは選書が別々）の本が入ってくるため、劇画やアクションものなども混ってくる、ということが問題となっている。

深川では、ちくまの「少年まん画劇場」・「理科マンガナゼナゼくん」などの学習マンガ類が数種ある。

千代田は、マンガは入れない方針であるが、学習マンガは感じて入れる。

目黒（緑ヶ丘）は入れない方針であるが、「サザエさん」・「チャーリー・ブラウン」などは例外として入れている。最初「サザエさん」は、一般の書架に置いていたのであるが、子どもたちが見つけ出して、今では子どもたちの間ですごい借りゆきだということである。中野もや

はり入れない方針であるが、月刊誌はあった。

板橋においても、置かないことにしているが、集英社の理科マンガシリーズなどの学習マンガはむしろ進んで入れている。月刊誌も見かけた。

調布市内の他の分館では入れているところもあるが、宮の下では全く何も入っていない。

マンガに関しても、昭島はやはりダイナミックで「サザエさん」・「いじわるばあさん」・「エプロンおばさん」などの長谷川町子のシリーズ及び「チャーリー・ブラウン」、手塚治虫の作品などが 1000 冊ほど入っているが図書館の書架に置かれている状態は全くなく、いつもカウンターで子ども同志で貸し借りがおこなわれているということである。

奥多摩も「サザエさん」、のらくろシリーズ、劇画なども置いているが、その人気は昭島と同様に在庫ゼロの状態である。しかし、今後は、これを最後にマンガは入れない予定である。

e. 人気の高い本

人気のある本において、その人気に関していろいろな要素がある。親や、先生、友だちそして児童図書館員が薦める本、児童室の壁や書架などにそのジャケットをはりだした本、新しい本、カラフルな本、タイトルのユニークな本、大きい字で書かれている本など大小様々な要因によってその人気を左右するのである。しかし実際にどのような本に人気があるか見ていく。

1) 千代田図書館

文学が一番よく借り出されている。次に科学、スポーツ、あそびの本とつづく。

この児童室では貸し出し率の高い図書のカードをとっておくというのでそれをみると、約 150 冊のうちで、ブックリストの集計にできたものは 45 冊、S・F・探偵ものが 40、残りは他の文学、絵本、7・4 類となる。そのうち最も人気のあるものは、「いやいやえん」・「リコはおかあさん」・「ライルはにんきもの」・「小さいモモちゃん」・「ベットの飼ひ方」・「切手入門」・「手品奇術入門」・「日本のおばけ話」・「ルパン対ホームズ」・「スプーンおばさんのぼうけん」・「8・1・3」・「けんこうだいいち」・「たいようのぼうや」・「おうさまのたけうま」・「しあわせなちょうちょ」・「青いまほうつかいとウィリー」・「まほうつかいの日曜日」

2) 台東図書館

目立って人気のあるような特定なものはないがしいて挙げれば「いやいやえん」、加古里子のシリーズ

3) 深川図書館

「エルマーのぼうけん」シリーズ、「いやいやえん」

4) 目黒（緑ヶ丘）図書館

低学年向け読物・機関車・電車についての本、S・F 探偵・怪奇ミステリー・おばけの本、学習マンガ、歴史の本

5) 中野図書館

男の子向きの本・絵本

6) 板橋区立中央図書館

S・F・外国文学・4 類

7) 昭島市民図書館

学年によって人気のあるものは異なってくる。小学校 3, 4 年では「モグラ原っぱの仲間たち」・「モチモチの木」・「はけたよはけたよ」、5, 6 年では、探偵もの

8) 宮の下分館

探偵もの・実用書（工作、クイズ）・絵本

9) 奥多摩図書館

恋愛もの・探偵もの

お わ り に

人気のある本をみると、その内容が、大きく 2 つに分れているということに気がつく、まず 1 つは、児童文学者もしくは、それに類した人々によって書かれた文学・絵本・及び自然科学や伝記などのノンフィクション類で、ブックリストの集計に載っている種類の本である。こういった種類では、子どもたちの人気というものが、その図書を判断する上での基準にもなるが、中には大人が“好ましくない・偏向している・問題だ！・読ませたくない”と思う本もある。たとえば現在議論をよんでいる「シナの五人きょうだい」・「ちびくろさんぼ」などである。又「たぬき学校」・「宿題ひきうけ株式会社」など、論争を巻き起こす程の大きな要因はないが、“よい本であるとは思えない・くだらない・文学的に低すぎる”など、多少の個人的嗜好も入り混じって一部の大人に好まれない本もたくさんある。しかしそういった作品に議論が集中しても、現に子どもたちは好んで読みつづけているという事実は残る。その中にあって児童図書館員は、どんな本が子どもたちに合い、そして喜ぶかを毎日の経験によって議論する以前に知っている。そしてその図書館の特長、地域性なども考え合わせた上で、それぞれの方法をとっている。

次に、もう 1 つの人気のある種類のものがある。これは、人気の内容が前者とは質的に異なり、敢えて比較す

るとすれば、はるかに読者層の多いといえる、マンガ・S・F・探偵もの及び実用書でブックリストには載らない性格のものである。内容については前者のような深刻な論議をよびおこさない、というのは、ブックリストによい本であるとすすめられる以前に、単なる娯楽書、たわいもないもの、とされているからである。そのかわり、論議をよぶとしたら、(特にマンガ)その種類のものを入れるか入れないかということになる。そしてこの2番めの種類の選定も、図書館員はそれぞれ独自のやり方で進めているものの、探偵ものや実用書に関しては、その選択基準を述べている図書館は、わずか1館のみに過ぎず、その高い利用にもかかわらず、あまり問題にされていない。これだけ多くのブックリストがでている今日、S・F・探偵ものや、ノンフィクションなどの専門的なブックリストや目録が作成されることが期待される。

今度は、反対に多くの人々が芸術的に高く、内容も優れているとしてすすめている本が多くあるが、こういった本のすべてが、必ずしも、子どもの人気にはつながらない。受賞作品においても、人気のないもの、今では絶版になってしまっているものも多くある。しかしわずかの読者層ではあるが、じっくりと長く読みつがれ、絶版になっても再び評価を受ける本もあるというように、人気だけがすべてではないことは当然であるが、賞も受け、多くの人々の意見、児童図書館員の意見、そして子どもの意見が一致した時、それはすばらしいものとなる。けれどもそれは、あくまでその図書を読む人々の任意で自由な判断のもとでのことである。しかし中には、好むと好まざるとにかかわらず読まされる、そういった本がある。それが課題図書である。

この課題図書の図書選択に及ぼす影響は大きく、II章でも述べているように、図書館員も好むと好まざるとにかかわらず、この課題図書を購入させられている。それを拒否できない理由として、利用者のリクエストの多さ、文学的には問題がなく、そして選定が容易であること、などであるが、利用者のリクエストは決して無視できないものであるし、マンガのように毅然とした態度をとれないのは、図書として何ら問題となるところもないのである。課題図書に選ばれていなくても、1冊ぐらいいは入れるかもしれないのである。しかし、何冊も必ず入れなくてはならないということに問題があり、調査館においてもその規模から考えるとおそらく程多くの複本を購入しているところもあったぐらいで、課題図書の陰に

隠れて、何冊かの優れた本は、書架に並ぶチャンスを失っている。

課題図書の多くは日本の創作文学であり、そして初期の課題図書が目的としていたように、現在多くの優れた児童文学が出版されている。それに伴い、ブックリストや図書目録が多く出版され、新聞の書評欄も大きくなり、世間の目も多く児童図書に向けられるようになった。しかしその中にあって1人の図書館員は、「当然入っていなければならない、子どもと貴重な出会いをすべき図書が書架に並んでいないのではないかが心配である。」と危惧しているように、現在のように多くの図書から1冊1冊を選び抜いていくのは難しいことである。そして特に今回の調査によっても明らかになったことであるが、高学年向きの本の選書が、困難であること、各館によって受け入れ方が異なり、判断に迷いそうなものは、比較的敬遠されがちであることなどが現状であり、一方受け入れ状況の低いものは、「選定図書速報」に載らなかったり、課題図書に選ばれなかったりした図書がなり易いということがわかったが、そのことを考えると、もし1部の選択ツールだけ、あるいは僅かな見計らいのみで選書をすれば、さきの危惧は、現実のものとなるだろう。

こうした出版状況にあって、極めて確実で有効と思われる選書をおこなっている図書館が深川である。昭島も新刊書を全部購入という点で、確実であるかもしれないが、予算及び蔵書の収容力の点から考えると、新刊書を全部見て、そこから児童室に入れるべき図書を厳選するという深川の方法は理想的であるといえる。又深川においては、その他の活動面においても、他の図書館より抜き出ている。このことは恐らく、図書館員の熱意はもとより、その歴史の古さ、地域の協力ということに他ならない。

実際に、調査の結果、選択方法、資料内容の各図書館の違いは、優劣の面、そして特色の面で捕えることができるが、その選択に及ぼす明確な地域性の違いを見分けることはできない。しかしもし地域的特性とよぶことができるとしたら、それは人的要素がほとんどを占めるといえる。その人的要素とは、学校の先生でもあるし、主婦でもあるし、児童館の職員でもあるし、書店でもある。その地域において考えられるあらゆる人々そして児童に関係のある施設である。そういう人々の熱心さ、興味によって特性も異なってくると思われる。

更にいえることは、同じ読書環境をもてば、どのよう

な地域においても同じであるということである。実際、昭島においては、全く図書館のなかったところに突然、大きな図書館ができたのであるから、その子どもたちは開館当初、福音館・岩波の本を1番目立つところに置いても目もくれず、マンガのところに殺到していたそうであり、その点、住民の中で生まれた図書館のある日野市とは、地理的に近いにもかかわらず、その読書水準にはおどろくべき差があったといえる。しかし半年も経つと子どもたちの多くは先の福音館や岩波の本に目を向けるようになったというように、子どもは受け入れる側として常に、その用意があり、それはどのような地域の子どもの間においても同じなのである。しかし、この例は全く地域的特性のなくなる、という意味では決してない。実際どのような所に児童図書館ができて、子どもたちは訪れすぐにいっぱいになるのである。子どもたちは新しい公共図書館児童室を待ち望んでいるのである。

しかし、児童室のでき方はおそく、そこで作らざるを得なくなるのが家庭文庫や地域文庫であり、たとえ児童室ができてその活動は、活発になっていくのである。このように文庫活動が発達しつづけるには、それだけの必然性と土壌が日本にはあるということになる。そして文庫という狭く、小さな地域内のデリケートな部分に生じる特質によって日本における、本当の明確な地域的特性が現われてくるのではないと思われる。

次に、高い保有館数の図書をみると、このうち5ブックリスト以上推選されている図書は、古典もしくは古典となり得るものと判断してさしつかえないと結論づけることができる。

図書館にくる子どもは、10年毎に変わり、そのつどそれぞれが、こういう古典となるべき本とめぐりあい、新しい経験が与えられるのである。それには常に新鮮な状態の蔵書が必要である。宮の下のように、最近の日本の創作児童文学の中には子どもを忘れさり、無視し、知らずに書かれているものが多いとはっきりした態度でその多くを購入せず、多くの予算を名作・古典及び絵本の買い換え等新鮮な蔵書維持のために使用している図書館もある。そして常に変化しない優れた蔵書構成を維持しつづけるには、予算を決して減らしてはならないということが、当然のこととして考えられる。1000万円を越す昭島はじめ、大体において増える方向に向かっている。しかし中央館級である図書館において、現在100万円以下にもかかわらず、今後はもっと減らしていく図書館もあるということは、意外なことである。又、

図書館員についても同じことがいえる。しばしば児童室のサービス及び選択の良し悪しは、その担当者の資質によって大きく左右されるといわれているが、実際にそうであるし、それだからこそ担当者の役割、資格あるいは資質がよく語られている。しかしサービスの状態だけをみて図書館員の資質を考えるのは人数の点からみると無理と思われる図書館もいくつかある。たとえ図書館員が意欲的に活動したいと思っても、日常の仕事に忙殺され、時間をかけてよいサービスができないということが現状である。

昭島の4万冊という数（現時点において、成人図書数より上回っている。）は予算同様膨大であるが、大体の図書館においては、人口に対する絶対数が少なく、このことは、分館の不足ということにつながる。子どもたちにとっては図書館が近くにあるということは、非常に好ましいことであり、宮の下では、購入の際には、1人1人の子どもの顔を思い浮かべながら選んでいるぐらいである。事実、この調査においても、不特定多数を相手にしている大きな図書館より、分館を多く調査していれば、その図書館の地域性なり特性なりがもっと明確にでていたように思われるように、選書にその特色を現わすのはむしろ分館といえるかもしれない。出版物が多く、本の値段の高い現在、1冊として無駄な買い方はできないという点、分館の方が、むしろその選定に神経を使わなければならないといえる。そのためにはしっかりした基準（方針）が、必ず必要となるはずである。

欧米において、かつては子どもを圧迫するような重苦しく、堅苦しい教訓的な本を図書館から取り除き、又政治的圧力の危険からも脱し、批判や制限をその思想に受けた図書に関して、その選択上多くの論争がおこり、又宗教上、人種上、言語上の地域性による諸要因の図書選択に及ぼす影響、及びその事実を長い間を経て今日の確固とした図書選択への理念をもつに至った又もたざるを得なかったという歴史的、社会的必然性があった。したがって自ら勝ちとった選択の理念である故、“外部の圧力に晒され”ないように、明文化された、選択の方針というものがあるのである。しかしそれに比べると、日本の現状においては何ら選択に及ぼす、歴史的必然性も、必要も自らつくりあげたものではないので、明確な方針のもとにおける基準がないということも決して不思議ではない。しかし、性問題をはじめ、社会問題、戦争、そして直面しなければならない多岐にわたっての分野を扱っている本がふえている今日、児童図書館は明確な態度

を打ち出さなくてはならない時期にあるといえる。

最後に本論のしめくりとして、Sheila Egoﬀ の次の言葉を挙げたい。

果たして図書館が図書を選択する場合、①劣等 ②平凡 ③問題提起の3種類の本があり、その中から選びだすのである。普通の図書館員は、悪者になりたくないのて“平凡”なものを与えがちである。しかし、子どもたちによいものを与えるのが図書館員の役目であるならば、子どもたちに問題（意識）を与えるべきである。もし問題があるような本なら、その本に対して賛否両論の意見があり、子どもたち自身の考え方を身につけるのに対して大きな力となる。批判及び判断は子どもたちにまかせるべきである。¹⁷⁾

- 1) Long, Harriet G. 児童図書館への道 [Rich the treasure]. 友野玲子訳. 東京, 日本図書館協会, 1966. p. 30.
- 2) *Ibid.*, p. 31.
- 3) McColvin, Lionel R. 児童のための図書館奉仕 [Public library services for children]. 倉沢政雄・北村春子訳. 東京, 日本図書館協会, 1973. p. 108-10.
- 4) 各項目は下記資料をまとめたもの.
Fleet, Anne. *Children's libraries*, London, Andre Deutsch, 1973. p. 56.
Long, *op. cit.*, p. 39, p. 41.
Broderick, Dorothy M. *An introduction to children's work in public libraries*. New York, Wilson, 1965. p. 29-38.
McColvin, *op. cit.*, p. 112.
- 5) Long, *op. cit.*, p. 50.
- 6) McColvin, *op. cit.*, p. 114.
- 7) 各項目は下記資料をまとめたもの.
Ibid., p. 113-6.
Broderick, *op. cit.*, p. 26-9.
小河内芳子編. 児童図書館. 東京, 日本図書館協会, 1967. p. 85.
- 8) Long, *op. cit.*, p. 54.
- 9) 調布市立図書館. 昭和 48 年度調布市における学校図書館の現況. 1974. 28 p.
- 10) 小河内芳子, *op. cit.*, p. 90.
- 11) たかしよいち. “戦後ブックリストの再検討,” 日本児童文学, vol. 13, 1967. 11, p. 20-21.
- 12) 12 冊のブックリストは以下の通りである.
① 石井桃子. 子どもの読書の導きかた, 東京, 国土社, 1964, p. 183-204.
② 石井桃子. 子どもの図書館. 東京, 岩波書店, 1973. p. 202-20.

- ③ 松尾弥太郎. 本を読む子・読まない子. 東京, 全国学校図書館協議会, 1965. p. 165-208.
- ④ 筒井敏介. 子どもに読ませたい50の本. 筒井敏介, 乾孝共編. 東京, 三一書房, 1963. 232 p.
- ⑤ 矢崎源九郎. 子供に読ませたい本. 矢崎源九郎, 神宮輝夫編著. 東京, 社会思想社, 1967. 293 p.
- ⑥ 合田修. 本と子ども. 東京, 国土社, 1968. p. 36-78.
- ⑦ 鳥越信. 三歳から六歳までの絵本と童話. 東京, 誠文堂新光社, 1967. p. 311-363.
- ⑧ 鳥越信. 子どもの本の選び方・与え方. 東京, 三省堂, 1973. p. 202-20.
- ⑨ 子どもの本研究会. 私たちの選んだ子どもの本. 東京, 1972. p. 123.
- ⑩ 本と子どもの会. 子どもの本の選び方と読ませ方. 東京, 国土社, 1971. p. 138-43.
- ⑪ 草野正名. 子どもを伸ばす読書 幼児から小学生まで. 東京, 三省堂, 1968. p. 119-89.
- ⑫ 無着成恭. 子どもの本 220 選. 東京, 福音館, 1964. 411 p.
- 13) よい本をすすめる委員会. よい本のリスト. 東京, 伊勢丹, 1974. 15 p.
- 14) 本と子どもの会. こんな本あんな本. 大阪, 阪急百貨店書籍売場, 1974. 45 p.
- 15) 小河内芳子. *op. cit.*, p. 83.
- 16) Harrod, Leonard Montague. *Library work with children; with special reference to developing countries*. London, Andre Deutsch, 1969. p. 61.
- 17) Egoﬀ, Sheila. If that don't do no good, that won't do no harm: the uses and dangers of mediocrity in children's reading. <Issues in children's book selection. New York, Bowker, 1973.> p. 3-10.

参 考 文 献

- Curri, Dorothy H.
How to organize a children's library. 2nd. ed. New York, Oceana, 1969. p. 11-6.
- 代田昇. “児童図書選択についての観点,” 日本児童文学, vol. 13, 1967. 11, p. 26-34.
- Groth, Elizabeth H. and Nambicz, Gem, Inyart. *Children's service in public libraries; organization and administration*. Chicago, A. L. A., 1963. p. 69-74.
- 座談会 “「課題図書」とは何か?” 日本児童文学, vol. 19, 1973, p. 16-35.
- 加太こうじ. “私の芸術論としての現代児童マンガ論,” 日本児童文学, vol. 19, 1973. 7, p. 72-6.
- “公立図書館とマンガ —児童奉仕は、マンガ文化をどう受けとめるか— 座談会,” 図書館雑誌, vol. 65, 1971. 3, p. 15-57.

坂本安子. “児童図書館への要求は大きい,” 図書館雑誌,
vol. 66, 1972. 8, p. 10-12.

清水正三. “図書館と児童館の協力をすすめよう,” こども
もの図書館, vol. 19, 1972. 5, p. 1-3.

Sullivan, Peggy. Victim of success? a closer look

at the Newbery award.

<Issues in children's book selection. New York,
Bowker, 1973.> p. 31-4.

東京都江東ブロック図書館協議会編. 住民と図書館 江
東地区における図書館サービス診断. 1968. 87 p.